

令和 8 年度

教 育 計 画

EDUCATIONAL PLAN

岡山県農林水産総合センター
農 業 大 学 校

Okayama Prefectural Technology Center
for Agriculture , Forestry and Fisheries

College of Agriculture

本 校 〒701-2223 赤磐市東窪田 157
電話 (086) 955-0550
旭分校 〒709-3494 久米郡美咲町北 2272
電話 (0867) 27-3321

目 次

1	教育計画について	1
2	本校沿革（教育目的の推移）	1
3	県組織における本校の位置付け	1
4	農業者研修教育施設及び専修学校として	1
5	教育目的	1
6	本校における課程及び専攻の設置	2
7	専任教員	2
8	卒業認定方針（ディプロマポリシー）	3
9	入学者受入方針（アドミッションポリシー）	3
10	教育理念	5
11	教育目標	5
12	教育課程編成及び実施方針（カリキュラムポリシー）	5
	（1）授業科目の種類	5
	（2）授業の形態	6
	（3）各課程及び各学年における授業科目	6
	（4）教育課程の編成方針	6
	（5）教育課程の実施方針	7
	①授業科目別教育内容	9
	②年間授業計画（令和8年度）	14
	③専攻別演習・実習計画	20
	④総括学修	28
	⑤免許・資格の取得	30
13	学修評価基準	30
14	教育・寮生活日課表	31
15	先進農家留学研修実施要領	32
16	応用技術研修等計画	33
17	主要行事予定	34
18	実習施設配置図	35

1 教育計画について

この教育計画は、岡山県農林水産総合センター農業大学校学則(以下「学則」という。)第 19 条の規定により、岡山県農林水産総合センター農業大学校(以下「本校」という。)において、学生が履修する授業科目及び授業時間数について定めるものである。

さらに、学則第 27 条第 2 項の規定により、本校の学生、一般農業者及び新規就農者等を対象として、本校が実施する研修講座について定めるものである。

2 本校沿革(教育目的の推移)

岡山県において、明治 34 年(1902 年)に業務開始した岡山県立農事試験場(現在の岡山県農林水産総合センター)が、大正 4 年(1915 年)、練習生の受け入れを開始した。この練習生受入制度は、農家の庭先で直接技術指導を行う、「町村農会技術員の養成」を目的としたものであった。なお、当該受入制度開始をもって本校設置の起源としている。

以降、「農業技術の指導者育成」を目的とする時代が続いたが、昭和 23 年(1948 年)の農業改良助長法の施行を受け、岡山県は昭和 24 年(1949 年)、「農業改良普及職員等の養成及びその再教育並びに中堅農業者養成」を目的とした岡山県立農業講習所を設置した。

その後、岡山県立三徳農業研修所(現岡山県立青少年農林文化センター)との統合により、昭和 43 年(1968 年)、現在の本校所在地である赤磐市東窪田 157 に、「近代的農業を担当する中核的人材の育成」を目的として、岡山県立農業大学校を移転設置した。平成 19 年(2007 年)には、学校教育法上の専修学校に移行し、2 度の校名変更を経て現在に至っている。

本校の沿革において特筆すべきとして、当初から農業実習中心の授業が行なわれていたこと、試験研究機関の研究従事者が直接授業を担当していたこと及び寄宿舎併設であったことである。本校におけるこれらの教育の特色は、設置の起源以来 120 年以上を経た現在でも引き継がれている。

3 県組織における本校の位置付け

本校は、岡山県が岡山県農林水産総合センター条例(平成 22 年岡山県条例第 20 号)第 10 条の規定により、岡山県農林水産総合センター(以下「センター」という。)に設置した教育施設である。

センターは、岡山県農林水産部農政企画課が所管する県の出先機関であることから、本校において県農業施策を反映した教育を行うとともに、センターにおける農業研究成果を利用した教育を行うものである(岡山県行政組織規則(昭和 41 年岡山県規則第 32 号)44 条 1 項 6 号)。

4 農業者研修教育施設及び専修学校として

本校は、農業者研修教育施設及び専修学校の 2 つの側面を持つ教育施設である。

施設設置の根拠法令である、農業改良助長法及び学校教育法の規定により、次の設置目的に従って学校の運営を行っている。

(1) 農業者研修教育施設として

農業後継者たる農村青少年その他の農業を担うべき者に対し近代的な農業経営の担当者として必要な農業経営又は農村生活の改善に関する科学的技術及び知識を習得させる(農業改良助長法 7 条 1 項 5 号)。

(2) 専修学校として

職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図る(学校教育法 124 条)。

5 教育目的

本校は、「近代的農業を担当するにふさわしい青年農業者等」の育成のために設置された教育施設である(学則 1 条より)。

ここでいう青年農業者等とは、新規就農者又は農業に関連する団体・企業等への就労者であり、年齢的には 45 歳未満を原則とする。本校では、青年農業者等の育成のために、次の 2 点を目的とした教育を行う。

(1) 農業の生産及び経営について、高度な知識及び技術を修得させること

(2) 国際化、情報化、社会経済情勢の変化に対応した教養の向上を図ること

6 本校における課程及び専攻の設置

(1) 2課程制

本校は、協同農業普及事業の実施についての考え方(ガイドライン)(令和7年7月3日付け7農産第1605号農林水産省農産局長通知)の別紙2に記載されている養成課程に相当する課程として、又、専修学校の専門課程として、本県農業の主軸たる分野に対応するために園芸課程及び畜産課程の2課程を置く。

この2課程は、専修学校設置基準(昭和51年文部省令第2号)第2条の規定における、本校教育上の基本となる組織とする。

また、2課程併せての入学定員を、1学年当たり35名とし、修業年限を2年間とする(岡山県農林水産総合センター条例施行規則29～30条、岡山県農林水産総合センター条例11条より)。

(2) 4専攻のコース制

園芸課程には、果樹、野菜及び花きの3つの作物分野についての各専攻コースを置く。このうち、果樹は、もも及びぶどう等を中心とした本県での栽培の歴史を踏まえ、野菜は、昨今の健康志向等に対応する高付加価値化をめざし、又、花きは、低コスト化等による生産性向上をめざすものとする。

専攻コースにおいては、関連作物分野に特化した専門的な知見及び栽培技術をより深める教育を行うものとする。

また、畜産課程には、本県での振興を図るべく、和牛について専攻コースを置く(図1参照)園芸及び畜産課程ともに学校教育法施行規則186条における特定専門課程であるとともに、各課程に設置されたコースは、専修学校設置基準第3条第1項に規定する学科に相当するものである。

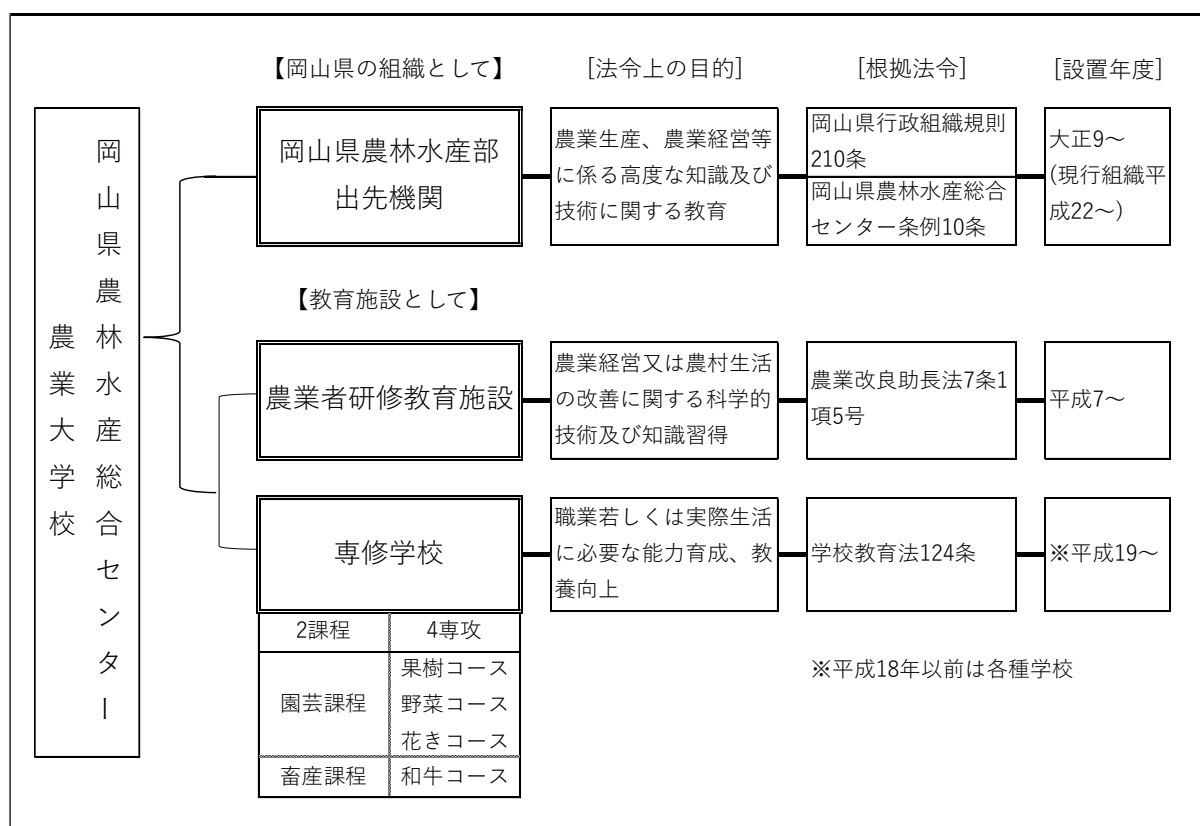


図1 県出先機関及び教育施設としての側面

7 専任教員

本校は、専攻コースごとに2名(和牛コースのみ1名)ずつの専任教員計7名を配置している。専任教員全員が、国家資格である農業普及指導員の資格を有している(令和7年度現在)。

8 卒業認定方針(ディプロマポリシー)

本校での教育課程を通し、必要な学修成果を身に付けた学生については、卒業を認めるとともに、専門士としての称号を授与する(学則 21~22 条)。

卒業の認定は、各授業科目における学修成果として身に付けるべき能力等を次のとおり定め、これらの修得状況を評価することにより行う。

(1) 実践農業教育における学修成果

- ①低コスト及び高付加価値生産を進めるため、先進的な生産知識、技術及び創造力を身に付け、地域農業のリーダーとなり得る能力
- ②生産性向上、経営分析及びマーケティング等の知識並びにコスト感覚を総合した農業経営能力
- ③先進農家留学研修及びプロジェクト学修を通して身に付けた栽培又は飼養技術、農業に取り組む姿勢及び問題解決能力
- ④応用技術研修等を通して得た免許又は資格

(2) 研究成果及び農業施策反映教育における学修成果

- ①農業技術の高度化に対応するバイオテクノロジー、ICT及びIoT等の知識を身に付け、それらの技術を農業に応用できる能力
- ②国際経済動向、グローバル化に影響される本県の農業情勢及び環境保全型農業に対応できる独創的な発想力及び実行力を発揮できる能力
- ③農業法規、農政時事問題、集落管理計画論、有機農業論、GAP実践論、6次化起業論及びスマート農業実践論などにおいて、現在の農業施策についての知識を身に付け、社会的に関心が高い農業問題に対応する能力

(3) 自律・協調・教養教育における学修成果

- ①地域農業リーダーの資質として身に付けるべき広い視野及び人間性豊かな人格並びに社会常識等の一般教養
- ②特別活動及び自治会活動(クラブ活動を含む)に参画することによって得られる人間関係、寄宿舎運営能力、各種イベント運営能力及び日常生活における遵法精神

9 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

上記5の教育目的に沿い、又、下記9の教育目標の実現にふさわしい学生として、次の資質、学修目的及び学力を有した学生を、入学試験による選定の上、入学させるものとする。

(1) 学生に必要な資質及び学修目的

①資質

- ア 農業に関する実践的な知識及び技術を学ぶ意欲を有している人
- イ 自ら考えて責任ある行動ができ、粘り強く努力を続けられる人
- ウ 寄宿舎等における共同生活に適応でき、協調性を重んじる人

②学修目的

岡山県での新規就農又は農業全般に関連する職業に就く目的を持っている人

(2) 学生に必要な学力ほか(学力の3要素)

①農作業に必要な体力

本校は、農業実習の時間が長く、年々厳しさを増す暑さ等の自然環境の中で行う農作業に耐えられる体力が求められる。高等学校等での体育の授業を通して、農作業に必要な基本的な動作が持続的にできる体力を身に付けておく必要がある。

②農業技術伝承に必要なコミュニケーション能力

農業技術は、主に実習(専攻実習又は先進農家留学研修)を通して、学生に口頭指導で伝承される。このため、高等学校等での国語の授業を通して、相手の言葉を理解して自分の行動に反映できる実行力及び自分の考えを相手に伝えられる基本的な文章表現力と口頭表現力を身に付けておく必要がある。

③計算能力

農業には、経営における経理事務及び農薬・肥料散布等の作業上必要な計算等、加減乗除、分数・指数計算及び比例計算等の計算能力が求められる。高等学校等での数学の授業を通して、これらの知識を身に付けておく必要がある。

④普通自動車免許

農作業における農業用機械運転のために、自動車運転免許の取得が推奨される。

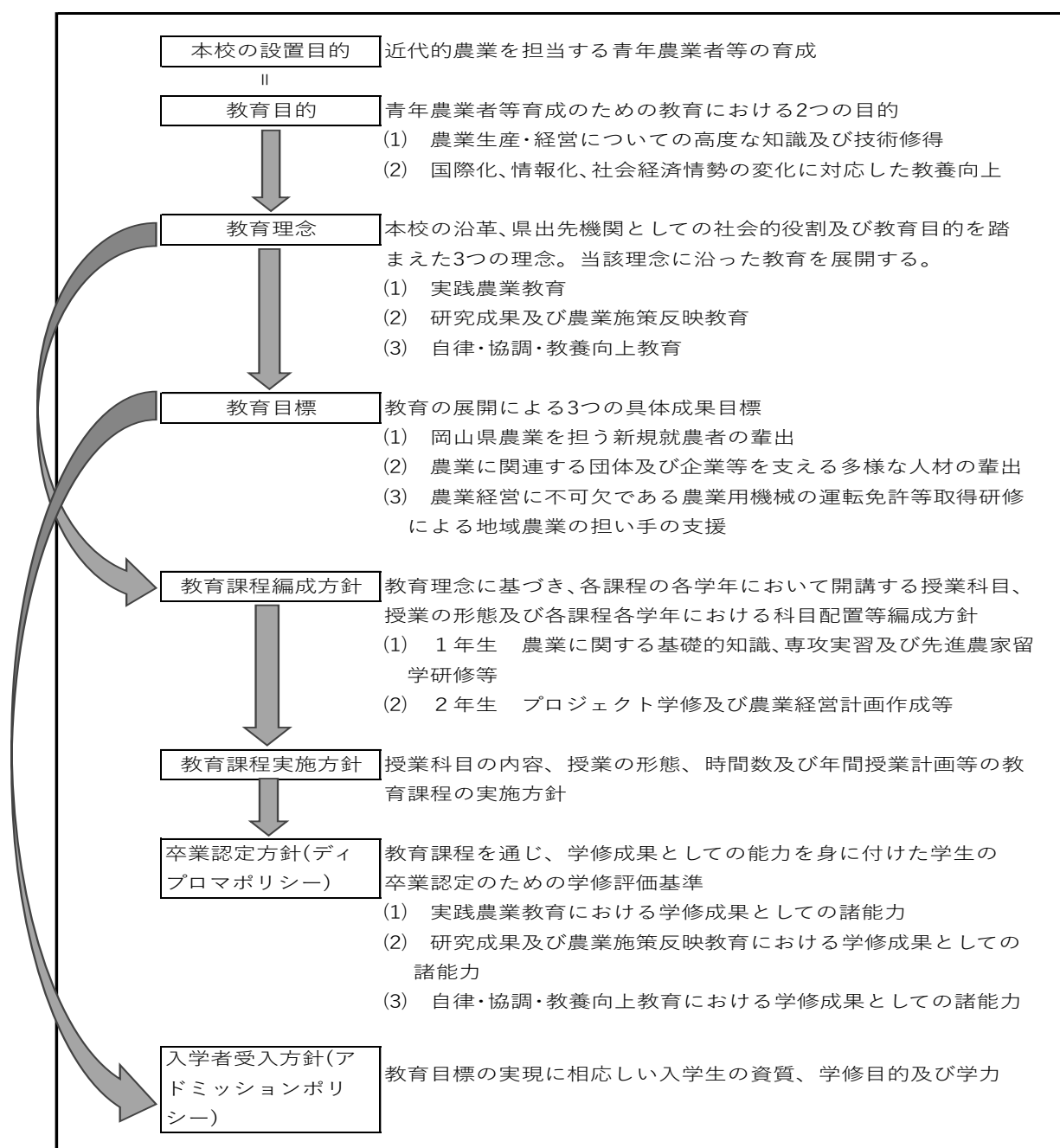


図2 教育目的等関連図

10 教育理念

本校においては、設置の起源以来の沿革、県出先機関としての社会的役割及び設置の根拠法令並びに上記5の教育目的に基づき、次の3つの教育理念を中心とした教育を展開する。

(1) 実践農業教育

- ①学生が主体となって栽培等を行うプロジェクト学修、演習及び専攻実習を通して、農業者又は農業経営者に必要な栽培管理技術、飼養管理技術及び経営管理技術を身に付けさせる。
- ②県農業普及指導センター及び先進農家との連携により、先進農家留学研修を通して、農業技術及び農業経営手法の伝承を図る。
- ③パソコンによる栽培データの情報処理技術及び専攻に関係する各種検定又は資格の取得等、業界が求める農業知識及び技術を身に付けさせる。
- ④担い手の育成を図るため、開かれた農業大学校として、学生に加え、一般農業者や新規就農者等を対象に、トラクター運転技術、アーク溶接等の農業に必要な技術資格の取得に必要な応用技術研修を実施する。

(2) 研究成果及び農業施策反映教育

- ①センターの農業研究所及び普及推進課の職員を講師に迎えることにより、これら研究部門等と一体となった最新の研究成果及び農業技術を活用した教育を行う。
- ②本県農林水産部の策定した農業施策を反映することにより、これからの農業に必須となる先端技術である情報処理技術を活用したスマート農業、GAP(適正農業規範)、有機農業及び不断の改善による持続的な農業の実現についての教育を行う。

(3) 自律・協調・教養向上教育

- ①寄宿舎への入舎により、実習ほ場等の日常的管理を可能にするとともに、自治会活動を通して、自律と協調の精神を養うことにより、農業者又は農業経営者としての社会常識を身に付けさせる。
- ②人間性を高め、広い知見を得ることを目的として、社会生活に役立つ実技ほか教養を深める教育を行う。

11 教育目標

上記10の教育理念に沿った教育を展開することによって得られる成果として、次の3点を目標とする。

- (1) 将来の岡山県農業を担う新規就農者の輩出
- (2) 農業に関連する団体及び企業等を支える多様な人材の輩出
- (3) 農業経営の規模拡大及び効率化等に欠かせない農業用機械の運転免許等を取得するための研修による地域農業の担い手の支援

12 教育課程編成及び実施方針(カリキュラムポリシー)

(1) 授業科目の種類(岡山県農林水産総合センター農業大学校の授業に関する規程[以下「授業規程」という。]14条1項より)

次の各号に掲げる科目分類により、授業科目を開設する。

- ①教養科目 農業及び社会生活に必要な知識ほか一般教養の修得を目的として開設し、全学生が履修しなければならない。
- ②共通専門科目 農業経営に係る基礎的な知識の修得を目的として開設し、全学生が履修しなければならない。
- ③園芸専門科目 園芸課程に係る専門的な知識の修得を目的として開設し、園芸課程の全学生が履修しなければならない。
- ④園芸専攻科目 園芸課程の果樹、野菜及び花きの各専攻に係る専門的な知識の修得を目的として開設し、園芸課程全学生が専攻ごとに履修しなければならない。
- ⑤畜産専門(専攻)科目 畜産課程の和牛専攻に係る専門的な知識の修得を目的として開設し、畜産課程和牛専攻における全学生が履修しなければならない。

⑥特別活動 資格の取得、知見の拡充、自主活動、就職準備等を目的とし、又は大学校の式典の場として開設し、全学生が履修しなければならない。

(2) 授業の形態(授業規程3条1項より)

授業は、次の各号に掲げる形態のいずれか、又は、これらの併用により行うものとし、その内容は当該各号に定めるところによる。

①講義 学生に対し、知識の伝達を口頭で行う学修

②演習 与えられた課題を解決することを目的として、理論や知識を生かす学修

③実験 機器を使用することにより、分析又は培養等に係る技術を修得する学修

④実技 技術又は機械の操作方法を実地に修得する学修

⑤実習 専攻科目及び専門(専攻)科目において行う授業科目において、次の形態の学修とする。

イ 専攻実習 栽培又は飼養体験を通じた管理技術の学修。なお、専攻実習の中で、自己管理による栽培又は飼養を通年行いつつ、自ら課題を設定し、その解決を図るための技術的手法を実地に検証する形態を、プロジェクト学修と称する。

ロ 先進農家留学研修 農業経営体での栽培又は飼養体験を通して、技術を修得しつつ、営農の現状を把握し、与えられた課題を解決する学修

⑥特別活動 研修、特別講義により知識を深め、イベントの運営、式典及び環境美化作業への参加により、社会常識を身に付けることを目的とした学修

(3) 各課程及び各学年における授業科目

上記10の教育理念に基づき、各課程の各学年において開講する授業科目、授業の形態、その期間及び各課程における編成等について、次の表1に定め、これを教育課程とする。

表1 教育課程(各課程の各学年において開講する授業科目等)

	期間・場所	授業科目 (授業の形態)
園芸課程	1年生：本校	教養科目 (講義、実技)
	2年生：本校	共通専門科目 (講義、演習、実験、実技、実習)
		園芸専門科目 (講義)
		園芸専攻科目 (講義、演習、実習)
		特別活動 (講義、特別活動)
畜産課程	2年生	教養科目 (講義、実技)
	・4月～11月：分校	共通専門科目 (講義、演習、実験、実技、実習)
	・12月～3月：本校	畜産専門(専攻)科目 (講義、実験、演習、実習)
	(分校期間中月・火曜日は本校)	特別活動 (講義、特別活動)

・教養科目、共通専門科目及び特別活動は、全学生が履修する。

・園芸専門科目は、園芸課程の全学生が履修する。

・園芸専攻科目は、園芸課程各コースの学生が履修する。

・畜産専門(専攻)科目は、畜産課程和牛コースの学生が履修する。

(4) 教育課程の編成方針

教育課程において、学年ごとに次のように授業科目を編成する。

①1年生

1年生では農業に関する基礎的な知識を学修する。作物や家畜の生理、生態や生産基本技術を学ぶ共通専門科目及び作目への理解をより深めるための専門科目、専攻科目の修得を組み合わせ、全履修時間の概ね50%を専攻科目による農場での専攻実習とする。

専攻実習では、農業普及指導員の資格を持つ専任教員により、専攻作目についての一般的な栽培管理技術を修得する。

前期及び後期の2回に分けた先進農家留学研修を通して、農業経営者の栽培管理技術、経営方法及び生活維持等に対する考え方を産地現場において修得する。

② 2年生

2年生では自ら課題解決を図るためのプロジェクト学修に取り組む。

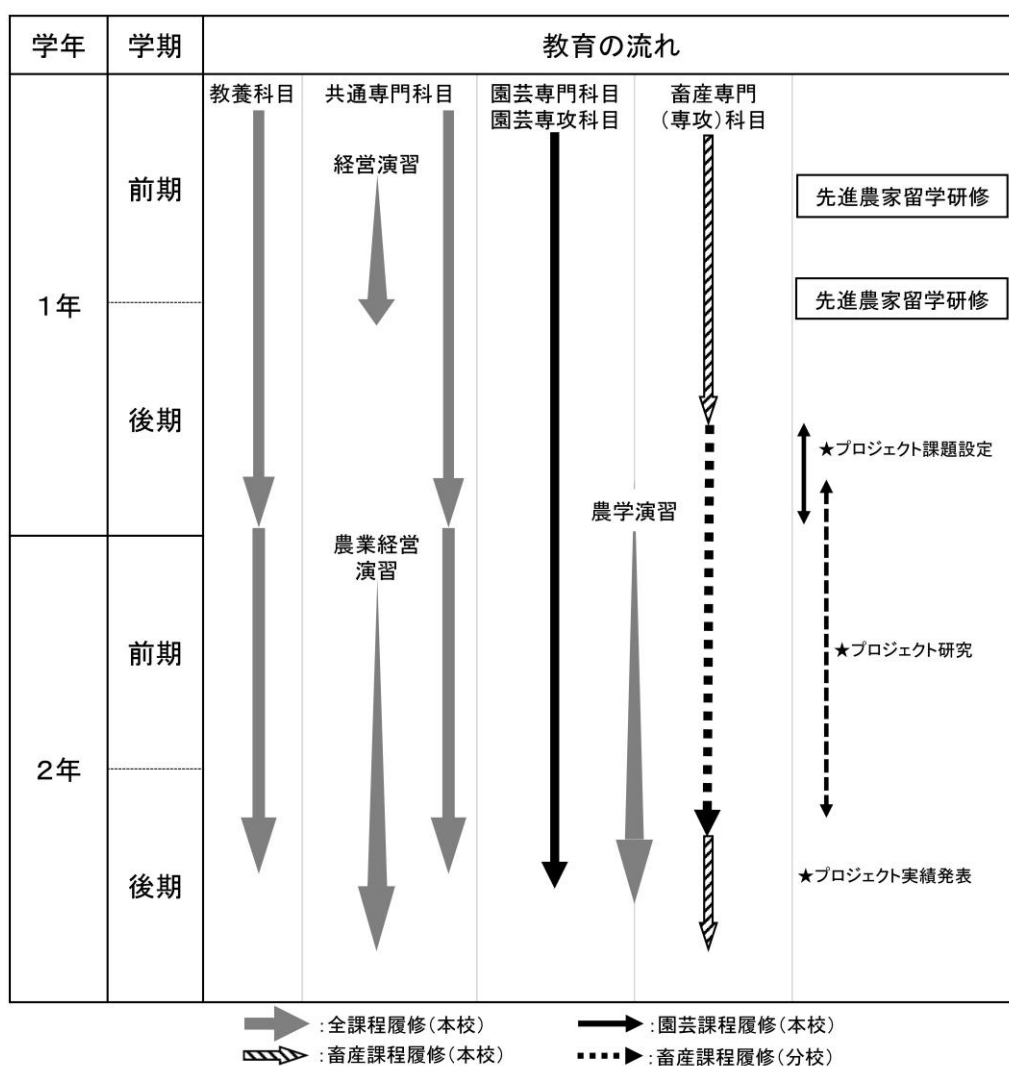
農学演習では、課題を設定し、栽培・飼養計画を立案し、農場において課題解決に至るプロセスを修得し、農業経営を実践する上で必要な能力の向上を図る。共通専門科目や専攻科目も合わせて修得し、農業経営演習では、プロジェクト学修の成果を踏まえて実現可能な農業経営計画を作成する。

また、2年間の修業期間を通して、社会生活に役立つ教養科目の履修や、農業経営に有利となる各種資格免許等の取得のための応用技術研修等も計画的に受講させる。

2年間を通しての教育課程の編成内容は、次の表2に定める。

なお、各授業科目の内容、到達目標及び成績評価方法等については、各授業科目の詳細な授業計画（シラバス）を確認すること。

表2 2年間の教育課程編成内容



(5) 教育課程の実施方針

上記10に定める3つの教育理念に基づき、次の教育内容の授業科目を設定して授業を行うものとし、授業全体の概要を表3に定める。

表3 授業科目別単位数及び時間数

授業科目	学年	科目数	単位数	時間数					計
				講義	実技・演習	実験	実習	特別活動	
教養科目 A	1	5	5	57	45				102
	2	2	2		39				39
	計	7	7	57	84				141
特別活動 B	園芸	1	5	1	21			42	63
		2	3	1				39	39
	園芸計		8	2	21			81	102
	畜産	2	3	1				30	30
共通専門科目 C	1	15	19	153	63	42	132		390
	2	20	14	87	144				231
	計	35	33	240	207	42	132		621
園芸専門科目 D	1	3	2	42					42
	2	4	5	78					78
	計	7	7	120					120
園芸専攻科目 E	1	4	22	30	39		573		642
	2	4	31	72	147		534		753
	計	8	53	102	186		1,107		1,395
園芸課程小計 G (C+D+E)	1	22	43	225	102	42	705		1,074
	2	28	50	237	291		534		1,062
	計	50	93	462	393	42	1,239		2,136
園芸課程合計 (A+B+G)	1	32	49	303	147	42	705	42	1,239
	2	33	53	237	330		534	39	1,140
	合計	65	102	540	477	42	1,239	81	2,379
畜産 専門(専攻)科目 F	2	8	34	87	132	12	489		720
畜産課程小計 H (C+F)	2 小計	28	48	174	276	12	489		951
畜産課程合計 (A+B+H)	2 合計	33	51	174	315	12	489	30	1,020

(注) 1年生「生物工学実験Ⅰ」非選択者は専攻実習+27時間

2年生園芸課程の「フラワー装飾」「森林資源活用」非選択者はそれぞれ専攻実習+15時間

畜産課程では家畜人工授精師講習が別に120時間設定されている。

畜産課程は2年生のみの単位数及び時間数を示している。

①授業科目別教育内容

ア 教養科目(各課程共通)

科 目	講 師	内 容	授業形態	1年生		2年生	
				時間数	単位数	時間数	単位数
人間と社会	学識経験者	和太鼓、フラワーアレンジ、ペン習字、英語から1科目選択	実技	30	1	24	1
暮らしと環境	学識経験者 民間他	防火対策・避難訓練、栄養管理・健康対策、メンタルヘルス、消費者教育、交通安全、救急救命、農業気象等に関する講習	講義	18	1		
体 育	農 大	ソフトボール、卓球、バドミントン等	実技	15	1	15	1
応用化学	農 大	危険物取扱者の資格取得に向けた危険物に関する法令、基礎的な物理・化学、性質・消火方法等についての講義	講義	15	1		
社会科学基礎	農業経営者 民間他	就農や就職に向けた社会科学関係の基礎知識の修得（オムニバス形式）	講義	24	1		
合 計				102	5	39	2

イ 特別活動(各課程共通)

科 目	講 師 又は主催	内 容	授業形態	1年生		2年生	
				時間	単位	時間	単位
式典	農 大	始業式、終業式、入学式、卒業式 式典準備及び後片付けを含め、儀式の進行方法及びマナー等を身に付ける。	特別活動	9	1	9	1
イベント運営	学生自治会 農 大	交流会、農大体育の日、校内環境美化作業 校内行事の計画及び実行の自主運営及び環境整備意識を身に付ける。	特別活動	30		園芸 24 畜産 15	
研修(校内)	農 大	就農・就職説明会、オリエンテーション 就農及び就職説明会等を通して、将来の進路を決定する上で重要な知識を修得する。	特別活動	3		6	
研修(校外)	農 大	県内外の農業・産業・文化施設の視察 農業等の現地視察や体験型研修により、農業や地域文化について理解を深める。	講義	6		-	
特別講義	農業経営者 民間 農産課 農 大	基礎数学、鳥獣害・狩猟免許、日本農業技術 検定学習、海外農業研修説明会等の農業や生活に必要とされる資格取得又は知識を修得する。	講義	15		-	
合 計				63	1	園芸 39 畜産 30	1

ウ 共通専門科目(各課程共通)

科 目		講 師	内容及び到達目標	授業形態	1年生		2年生	
					時間数	単位数	時間数	単位数
園芸概論		岡山大学	園芸作物の生理生態・繁殖法、園芸の役割等を理解する。	講義	15	1		
集落管理計画論		岡山大学	農村地域の課題を理解し、リーダー育成に向けた事例研究、ワークショップ等を修得する。	講義	15	1		
農政時事問題		岡山大学	農政時事全般についての見識を深める。	講義	15	1		
作物・畜産概論		普及推進課 農業研究所 ・ 畜産研究所 農 大	作物生産(水稻、麦、大豆等)の現状と動向、生理生態、育苗・本田管理・施肥・収穫等栽培技術等を理解する。 畜産における家畜生産と利用、育種、家畜管理、畜産経営等を理解する。	講義	24	1		
土壌肥料概論		普及推進課 農業研究所	土壌の基本的性質、土壌管理、肥料の種類と性質、施肥設計等を理解する。	講義	21	1		
農業経営論		農業研究所	農業経営の仕組み、マーケティングや農業・農村の役割等を理解する。	講義	15	1		
土壌肥料実験		農 大 農業研究所	土壌肥料の化学分析、土壌調査等の手法を修得する。	実験	15	1		
先進農家留学研修		先進農家	先進農家での農作業・生活体験を通じ、農家の現状を理解する。	実習	132	5		
園芸基礎		農 大	園芸作物の全般的な基礎知識や、一般的な栽培方法について理解する。	講義	18	1		
農業基礎		農 大 農産課 民 間	農業の現状を理解するとともに、農作物栽培の基礎知識や農機具の使い方等を修得する。	講義	15	1		
G A P 実践論		農 大 農産課 民 間	G A P に関する模擬演習や講義を通じ、知識を深める。	講義	15	1		
農業機械・施設整備		農 大 民 間	農業機械の適切な操作技術やパイプハウスの組立・分解技術、農作業安全に関する知識等を修得する。	実技	18	1		
選択	生物学実験Ⅰ	農業開発 研究所	植物の生長点等の無菌培養技術とバイオテクノロジーの知識を修得する。	実験	27	1		
農業法規		岡山大学	農地法、農業経営基盤強化促進法等農業関連法令に関する知識を深める。	講義			15	1
農業法人論		学識経験者	農業法人の種類、法人化のメリット、貸借対照表の見方等を理解する。	講義			15	1
6次化起業論Ⅱ		農業開発 研究所 民 間	6次産業化商品の試作や開発、販売方法、需要動向等の講義を通じ、理解を深める。	講義			21	1
農業経営分析論		普及推進課 民 間	経営分析診断の手法、税金の仕組み、青色申告の仕方等により経営分析の手法を理解する。	講義			18	1
スマート農業実践論		農 大 農業研究所 民 間	スマート農業の現状と基礎知識を講義や視察研修を通じ、理解する。	講義			18	1
情報処理		民 間	ワープロ・表計算(1年)とワープロ・表計算応用、パワーポイント(2年)の操作方法を修得する。	演習	24	1	24	1
農業経営演習		農 大	先進農家留学研修の地域調査、報告書まとめ、発表(1年)、経営計画の作成等(2年)により農業の現状と課題を把握する。	演習	21	1	120	8
合 計					390	19	231	14

エ 園芸専門科目(園芸課程共通)

科 目		講 師	内容及び到達目標	授業 形態	1年生		2年生	
					時間数	単位数	時間数	単位数
作物保護論		普及推進課 農業研究所	植物病害の概念、病原、発病の生態、防除法、害虫の概念、生態、被害態様、防除法等に関する知識を深める。	講義	21	1		
6次化起業論Ⅰ		農業開発研究所 民 間	6次産業化に必要な知識(農産物の成分、農産物の品質と変質、発酵食品、園芸食品の加工等)の理解を深める。	講義	21	1		
施設園芸論		岡山大学	施設園芸の特色、施設の種類と利用法等に関する知識を深める。	講義			15	1
有機農業論		農大、農産課 農業研究所等	有機農業の定義、土づくり、栽培基準、認証制度と表示等に関する知識を視察研修等を通じて深める。	講義			15	1
生産物流通論		対外戦略推進室 農業団体 民 間 農業者 市場等	農産物流通の現状と動向、消費者ニーズとマーケティング、卸売市場のしくみ等の知識を講義・視察研修により深める。	講義			18	1
選 択	フラワー装飾※	学識経験者	講義や実技を通し、フラワー装飾技能資格2・3級取得を目指す。	講義			15	1
選 択	森林資源活用※	森林研究所 農業者	森林資源の特性や利活用等に関する知識を深める。	講義			15	1
合 計					42	2	78	5

※選択科目を履修しない者は、実習とする。

オ 園芸専攻科目(園芸専攻コース別)

果樹コース

科 目	講 師	内容及び到達目標	授業 形態	1年生		2年生	
				時間数	単位数	時間数	単位数
果樹園芸総論	農 大	果樹の種類、繁殖法、栽培適地、果樹の生理、整枝とせん定法、土壌管理と施肥技術、施設栽培等に関する知識を深める。	講義	15	1		
果樹園芸各論	農 大 普及推進課 農業研究所	もも、ぶどう等本県主要果樹の品種特性や栽培管理技術、新技術等に関する知識を深める。	講義	15	1	48	3
果樹経営論	農 大	果樹経営の歴史と現状、改善方法等を県内外先進農家等の経営事例調査等により理解する。	講義			24	1
農 学 演 習	農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	39	2	147	9
専 攻 実 習※	農 大	農業普及指導員資格のある職員が、現場産地での栽培指導等、長年の実務経験を活かし実習の指導にあたる。別表のとおり (20～21ページ参照)	実習	573	18	534	18
合 計				642	22	753	31

野菜コース

科 目	講 師	内容及び到達目標	授業 形態	1年生		2年生	
				時間数	単位数	時間数	単位数
野菜園芸総論	農 大	野菜の種類と増殖技術、作型、育苗技術、土壌管理と施肥技術、施設栽培、養液栽培、機械化技術等に関する知識を深める。	講義	15	1		
野菜園芸各論	農 大 普及推進課 農業研究所	トマト、なす、きゅうり、いちご等主要品目の品種特性や栽培管理技術、新技術等に関する知識を深める。	講義	15	1	48	3
野菜経営論	農 大	野菜経営の歴史と現状、改善方法等を県内外先進農家等の経営事例調査等により理解する。	講義			24	1
農 学 演 習	農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	39	2	147	9
専 攻 実 習※	農 大	農業普及指導員資格のある職員が、現場産地での栽培指導等、長年の実務経験を活かし実習の指導にあたる。別表のとおり (22～23ページ参照)	実習	573	18	534	18
合 計				642	22	753	31

花きコース

科 目	講 師	内容及び到達目標	授業 形態	1年生		2年生	
				時間数	単位数	時間数	単位数
花き園芸総論	農 大	花きの種類と育種方法、繁殖と種苗生産、土壌管理と施肥技術、生長と開花調節の方法、環境調節技術等に関する知識を深める。	講義	15	1		
花き園芸各論	農 大 普及推進課 農業研究所	きく、カーネーション、ばら、シクラメン、花木、花壇苗等主要品目の品種特性や栽培管理技術、新技術等に関する知識を深める。	講義	15	1	48	3
花き経営論	農 大	花き経営の歴史と現状、改善方法等を県内外先進農家等の経営事例調査等により理解する。	講義			24	1
農 学 演 習	農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	39	2	147	9
専 攻 実 習※	農 大	農業普及指導員資格のある職員が、現場産地での栽培指導等、長年の実務経験を活かし実習の指導にあたる。別表のとおり (24～25ページ参照)	実習	573	18	534	18
合 計				642	22	753	31

※実務経験のある教員等による授業科目。

カ 畜産専門(専攻)科目 (畜産課程)

和牛コース

科 目		講 師	内容及び到達目標	授業形態	2年生	
					時間数	単位数
家畜繁殖学	家畜育種	分 校	育種、遺伝、人工授精、生殖器解剖等に関する知識を深める。	講義	15	1
家畜飼養学	家畜疾病	分 校	家畜の疾病の原因、症状、予防、衛生管理等に関する知識を深める。	講義	15	1
	畜産経営論	農 大 分 校	肉用牛経営の現状や課題や改善方法を県内外先進農家の経営事例調査を通じ理解する。	講義	27	2
草地管理		分 校	草地概論、草地造成、草地管理利用、貯蔵飼料等に関する知識を深める。	講義	15	1
生物工学実験Ⅱ		分 校	受精卵の移植技術操作等を実験を通し、理解する。	実験	12	1
畜産環境保全		分 校	家畜排せつ物の処理方法、環境保全技術等に関する知識を深める。	講義	15	1
農学演習		農 大	プロジェクト課題の計画立案、計画・中間・実績発表、実績報告書作成を通して、自己解決能力を身につける。	演習	132	9
専攻実習※1		農 大 分 校 農業者	農業普及指導員資格のある職員や畜産研究所で家畜の飼育管理を行っている職員が、その実務経験を活かし、実習の指導にあたる。 また、現地農場での実習を合わせて行い、より実際に即した先進的な技術を修得する。 別表のとおり (26～27ページ参照)	実習	489	18
合 計					720	34

※1 実務経験のある教員等による授業科目。

※1 専攻実習には先進農家で実施する校外実習156時間を含む。

家畜人工授精師講習※2	家畜保健衛生所、民間ほか	家畜の繁殖・改良技術向上を目指し、牛や豚の人工授精・受精卵移植技術を修得する。	講義実技	120	-
-------------	--------------	---	------	-----	---

※2 家畜人工授精師講習を受講しない場合は専攻実習とする。

キ 応用技術研修(各課程共通)

応用技術研修※3	民間他	小型車両系建設機械やフォークリフトの運転、大型特殊自動車免許（農耕車限定）やけん引免許（農耕車限定）の取得、アーク溶接の技術など農業に必要な資格や免許を取得する。	講義実技	1・2年生	
				102	-

※3 園芸課程専攻科目及び畜産課程専門(専攻)科目として、専攻実習における選択科目とする。

※3 応用技術研修を受講しない場合は専攻実習とする。

※3 30, 33ページ参照

②年間授業計画(令和8年度)

月	学年	曜 月	曜 火	曜 水	曜 木	曜 金	備考
		I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10	I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10	I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10
		3月30日	3月31日	4月1日	4月2日	4月3日	
		春季休業					
4月	1年園芸	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日	4/8始業式 4/9入学式 4/8・10オリエンテーション
	2年園芸	春季休業(プロジェクト研究)					
	2年畜産	春季休業					
		4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	
	1年園芸	実習	園芸総論①	農業基礎①(刈払機)	農業基礎③	農業基礎④	実習
	2年園芸	実習	農業演習Ⅱ①	実習	実習	農業演習Ⅱ②	実習
	2年畜産	実習	人間と社会①	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)
		4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日	生物工学Ⅱ①
	1年園芸	実習	校外研修【開谷学校・備前焼】	実習	実習	実習	実習
	2年園芸	実習	プロジェクト 中間発表会①	実習	実習	実習	実習
	2年畜産	実習	農業演習Ⅱ②	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)
		4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	4/20 プロジェクト 中間発表会 4/25野菜の日
	1年園芸	実習	実習	実習	園芸基礎②【花き】	基礎数学	実習
	2年園芸	実習	実習	実習	施設園芸論①	農業演習Ⅱ⑤	実習
	2年畜産	実習	農業演習Ⅱ④	実習	実習(分校)	家畜疾病③	実習(分校)
		5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	
	1年園芸	みどりの日	こどもの日	振替休日	園芸概論①	作物概論①	選択:生物工学αβ①
	2年園芸				施設園芸論②	実習	実習
	2年畜産				実習(分校)	家畜疾病④	実習(分校)
		5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	
	1年園芸	実習	くらしと環境①	実習	鳥獣害・狩猟免許	園芸総論④	選択:生物工学α②
	2年園芸	実習	実習	選択:フワワ-装飾①	園芸各論Ⅱ①	施設園芸論③	選択:生物工学β②
	2年畜産	実習	農業経営分析論①	実習(分校)	家畜育種③	実習(分校)	実習
		5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	
	1年園芸	実習	作物概論②	実習	農業経営演習Ⅰ①	作物概論③	選択:生物工学α③
	2年園芸	農業法規①	実習	選択:フワワ-装飾②	実習	施設園芸論④	園芸各論Ⅱ②
	2年畜産	実習	農業演習Ⅱ⑤	実習(分校)	家畜育種④	実習(分校)	生物工学Ⅱ④
		5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	
	1年園芸	実習	海外研修説明会	実習	農業経営演習Ⅰ②	作物概論④	実習
	2年園芸	農業法規②	選択:フワワ-装飾③	実習	有機農業論①	施設園芸論⑤	実習
	2年畜産		農業演習Ⅱ⑥	実習	家畜育種⑤	実習(分校)	農業経営分析論③
						健康診断	
5月							

②年間授業計画(令和8年度)

月	学年	曜 月		曜 火		曜 水		曜 木		曜 金		備考
		I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	
		6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6/2 プロジェクト 中間発表会 6/6 オープンキャン パス①
6月	1年園芸	選択:生物工学α④	選択:生物工学β④	人間と社会③	プロジェクト 中間発表会②	実習	作物概論⑤	園芸概論⑤	集落管理計画論①	実習	特別活動 【環境美化】	
	2年園芸	農業法規③	農業経営分析論④			選択:フラー装飾⑤	有機農業論②	農学演習Ⅱ⑦	園芸各論Ⅱ③	実習		
	2年畜産					実習(分校)	草地管理②	実習(分校)	畜産経営論②	実習(分校)	実習(分校)	
	1年園芸	6月8日	6月9日	6月10日		6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	
	2年園芸	実習	就業・就職説明会②	農業法人論①	農業経営分析論⑤	実習	有機農業論③④【校外】	有機農業論③④【校外】	実習	園芸各論Ⅱ④	実習(分校)	
	2年畜産	実習		草地管理③	畜産経営論③	実習(分校)	実習(分校)	畜産経営論③	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)	
	1年園芸	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6/21 危険物取扱者 試験
	2年園芸	実習	農業法人論②	農業経営分析論⑥		実習	選択:森林資源活用①	園芸経営論①②【校外】	実習	実習	実習	
	2年畜産	実習	農業法人論②	農業経営分析論⑥		実習(分校)	草地管理④	実習(分校)	畜産経営論④	実習(分校)	実習(分校)	
	1年園芸	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日	6月30日	7月1日	
	2年園芸	実習	スマート農業 実践論①	実習	実習	実習(分校)	草地管理⑤	実習(分校)	畜産経営論⑤	実習(分校)	実習(分校)	
	2年畜産	農学演習Ⅱ⑧		実習	実習	実習(分校)	草地管理⑤	実習(分校)	畜産経営論⑤	実習(分校)	実習(分校)	
	1年園芸	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	7月6日	7月7日	7月8日	7/4日本農業技 術検定 7/5農業簿記検 定
	2年園芸	実習	実習	実習	園芸基礎④【果樹】	集落管理計画論②	選択:生物工学α⑤	選択:生物工学β⑤	実習	実習	実習	
	2年畜産	農業法規④	農学演習Ⅱ⑨	農学演習Ⅱ⑧	農学演習Ⅱ⑧	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	1年園芸	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	7月15日	7/7 プロジェクト 中間発表会 7/9,10 小型建機
	2年園芸	実習	人間と社会④	実習	実習	実習	実習	実習	実習	実習	実習	
	2年畜産	農業法規⑤	プロジェクト 中間発表会③	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	応用技術研修					小型建機	小型建機	小型建機	小型建機	小型建機	小型建機	
	1年園芸	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日	7月20日	7月21日	7月22日	7/14 プロジェクト 中間発表会 7/25 オープンキャン パス② 7/31 あぐり夢未来塾
	2年園芸	実習	実習	実習	園芸基礎⑤【野菜】	集落管理計画論③	実習	実習	実習	実習	実習	
	2年畜産	農学演習Ⅱ⑩	農学演習Ⅱ⑪	農学演習Ⅱ⑩	園芸各論Ⅱ⑤	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	1年園芸	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日	7月27日	7月28日	7月29日	
	2年園芸	海の日	実習	実習	集落管理計画論④	特別活動 【環境美化】	実習	実習	実習	実習	実習	
	2年畜産		スマート農業 実践論②	農学演習Ⅱ⑬	農学演習Ⅱ⑬	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	1年園芸	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日	7月32日	7月33日	7月34日	7月35日	7月36日	
	2年園芸	情報処理①	情報処理②	情報処理③	情報処理④	情報処理⑤	情報処理⑥	情報処理⑦	情報処理⑧	情報処理⑨	情報処理⑩	
	2年畜産	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	
	1年園芸	情報処理①	情報処理②	情報処理③	情報処理④	情報処理⑤	情報処理⑥	情報処理⑦	情報処理⑧	情報処理⑨	情報処理⑩	
	2年園芸	実習	試験/実習	試験/実習	試験/実習	試験/実習	試験/実習	試験/実習	試験/実習	試験/実習	試験/実習	
	2年畜産	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑭	

②年間授業計画(令和8年度)

月	学年	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜	備考		
		I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00		III・IV 13:00～16:10	
8月	1年園芸	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日			
	2年園芸	夏季休業(プロジェクト研究)							
	2年畜産	夏季休業(プロジェクト研究)							
	1年園芸	8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日	トラクター研修 A・B班:1年 C班:1・2年 D・E班:一般		
	2年園芸	夏季休業(プロジェクト研究)							
	2年畜産	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日	8/22 オープンキャン パス③		
	応用技術研修	夏季休業(プロジェクト研究)							
	1年園芸	8月24日	8月25日	8月26日	8月27日	8月28日			
	2年園芸	実習	情報処理⑤	実習	実習	実習	選択:生物工学α⑥		
	2年園芸	実習	農学演習Ⅱ⑪	実習	園芸経営論③④⑤⑥【校外】	実習	園芸各論Ⅱ⑦		
2年畜産	実習	農学演習Ⅱ⑫	実習	校外実習	校外実習	校外実習			
応用技術研修	乗車研修C②		乗車研修B③	乗車研修D③	乗車研修E③	乗車研修A④	乗車研修B④	乗車研修D④	乗車研修E④
9月	1年園芸	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	8/31 プロジェクト 中間発表会 9/5果樹の日		
	2年園芸	実習	実習	実習	情報処理⑥	実習		実習	
	2年園芸	実習	実習	実習	農学演習Ⅱ⑬	実習		実習	
	2年畜産	実習	農学演習Ⅱ⑭	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	応用技術研修	乗車研修C③	乗車研修C④	乗車研修B⑤	乗車研修C⑤	乗車研修D⑤	乗車研修E⑤	試験① 学生	
	1年園芸	9月7日	9月8日	9月9日	9月10日	9月11日			
	2年園芸	実習	人間と社会⑤	実習	選択:生物工学α⑦	実習		実習	
	2年園芸	情報処理⑥	体育④	実習	園芸各論Ⅱ⑨	実習		実習	
	2年畜産			校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習	
	応用技術研修			試験② 学生	乗車研修D⑤	乗車研修E⑤	試験③ 学生＋一般		
9月	1年園芸	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日			
	2年園芸	情報処理⑧	実習	実習	選択:生物工学α⑧	実習		実習	
	2年園芸	実習	農業経営演習Ⅱ②	実習	農学演習Ⅱ⑬	実習		実習	
	2年畜産	実習	農業経営演習Ⅱ⑩	校外実習	校外実習	校外実習	校外実習		
	応用技術研修			試験④(一般)	試験⑤(再試験)	試験⑤(再試験)			
	1年園芸	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9/26 推薦入試		
	2年園芸	敬老の日	国民の休日	秋分の日		先進農家留学研修		実習	
	2年園芸			実習	園芸経営論⑦⑧【校外】	実習		実習	
	2年畜産	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	校外実習	校外実習	
	1年園芸	先進農家留学研修							
2年園芸	実習	6次化起業論Ⅱ①	実習	選択:森林資源活用②③【校外】	実習	実習			
2年畜産	実習	農学演習Ⅱ⑮	校外実習	校外実習	畜産経営論⑥⑦⑧⑨【校外】	校外実習			

②年間授業計画(令和8年度)

月	学年	曜 月	曜 火	曜 水	曜 木	曜 金	備考
		I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10	I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10	I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10
		10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	
1年園芸	実習	農業経営論③	農業経営論③	農業経営演習Ⅰ⑤	農政時事問題①	実習	特別活動 【収穫祭準備】
2年園芸	実習	人間と社会⑥	6次化起業論Ⅱ②	園芸各論Ⅱ⑪	生産物流通論④⑤【校外】	実習	
2年畜産	実習	体育⑤		畜産環境保全①	実習(分校)	実習(分校)	
		10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	
1年園芸		スポーツの日	実習	実習	農業経営論④	実習	10/13,14 農大生の集い
2年園芸			実習	実習	6次化起業論Ⅱ③	実習	けん引研修
2年畜産			実習	実習	農学演習Ⅱ②⑩	実習(分校)	A・B班1年 C班1・2年 D班一般
応用技術研修						けん引説明会	乗車研修A①
		10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	
1年園芸	実習	社会科学基礎①	先進農家留学研修発表会 (農業経営演習Ⅰ⑥⑦)	実習	農政時事問題②	実習	10/20 先進農家留学 研修成果発表 会
2年園芸	実習	園芸各論Ⅱ⑫	実習	生産物流通論⑥	農学演習Ⅱ⑭	実習	10/25 危険物取扱者 試験
2年畜産	実習	農学演習Ⅱ⑪	実習	畜産環境保全③	実習(分校)	実習(分校)	実習(分校)
応用技術研修	乗車研修C①	乗車研修D①		乗車研修B①	乗車研修D②	乗車研修B②	乗車研修A③
		10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	
1年園芸	農業経営論⑤	実習	実習	実習	農政時事問題③	実習	実習
2年園芸	実習	実習	6次化起業論Ⅱ④	スマート農業実践論④⑤ 【校外】	農学演習Ⅱ⑮	実習	実習
2年畜産	農学演習Ⅱ⑫	農学演習Ⅱ⑫			農学演習Ⅱ⑯	実習(分校)	畜産環境保全④
応用技術研修	乗車研修D③	乗車研修C③	乗車研修B③			乗車研修B④	乗車研修C④
		11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	
1年園芸	実習	土壌肥料実験A②		実習	農政時事問題④	GAP実践論①	日本農業技術検定学習
2年園芸	実習	6次化起業論Ⅱ⑤	文化の日	実習	農学演習Ⅱ⑰	園芸各論Ⅱ⑭	農学演習Ⅱ⑰
2年畜産	実習			実習(分校)	畜産環境保全⑤	実習(分校)	実習(分校)
応用技術研修	乗車予備日			けん引試験① 学生	乗車研修D④	けん引試験② 一般	
		11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	
1年園芸	土壌肥料実験A③	土壌肥料実験A④	選択:生物工学αβ⑨	実習	農政時事問題⑤	土壌肥料概論①	実習
2年園芸	実習	農学演習Ⅱ⑱	人間と社会⑦	実習	農学演習Ⅱ⑲	スマート農業 実践論⑥	実習
2年畜産	農学演習Ⅱ⑮	農学演習Ⅱ⑲	6次化起業論Ⅱ⑥	農学演習Ⅱ⑳	農学演習Ⅱ㉑	農学演習Ⅱ㉒	農学演習Ⅱ㉒
応用技術研修				けん引試験③ 学生+一般		けん引試験④(再試験)	
		11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日	
1年園芸	畜産概論②③【校外】	6次化起業論Ⅱ①	土壌肥料実験A⑤	土壌肥料実験B①	プロジェクト実績 発表会(畜産課程)	土壌肥料概論②	実習
2年園芸	実習	人間と社会⑧	実習	農学演習Ⅱ⑳		園芸各論Ⅱ⑮	実習
2年畜産	実習	農学演習Ⅱ㉓	農学演習Ⅱ㉔	農学演習Ⅱ㉕		農学演習Ⅱ㉖	実習
		11月23日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日	
1年園芸		勤労感謝の日	実習	GAP実践論②③【校外】	土壌肥料概論③	6次化起業論Ⅱ②	11/24 プロジェクト 計画発表会
2年園芸			実習	農学演習Ⅱ㉗	実習	園芸各論Ⅱ⑮	農学演習Ⅱ㉗
2年畜産				家畜人工授精師講習(萩山)			

②年間授業計画(令和8年度)

月	学年	曜 月	曜 火	曜 水	曜 木	曜 金	備考
		I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10	I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10	I・II 8:50~12:00	III・IV 13:00~16:10
		11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日	
1年園芸	実習	土壌肥料概論④	土壌肥料実験B③	実習	作物保護論①	土壌肥料概論⑤	社会科学基礎④
2年園芸	実習	農学演習Ⅱ②③	農学演習Ⅱ②④	農学演習Ⅱ②⑤	農学演習Ⅱ②⑥	農学演習Ⅱ②⑦	農学演習Ⅱ②⑧
2年畜産				家畜人工授精師講習(緑山)			
		12月7日	12月8日	12月9日	12月10日	12月11日	
1年園芸	実習	応用化学①	土壌肥料概論⑥	作物保護論②	プロジェクト実績発表会(2年生)	くらしと環境④	実習
2年園芸	実習	農学演習Ⅱ③④	農学演習Ⅱ③⑤	農学演習Ⅱ③⑥		実習	農学演習Ⅱ③⑦
2年畜産				家畜人工授精師講習(緑山)			
		12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	
1年園芸	実習	実習	土壌肥料実験B⑤	実習	6次化起業論Ⅰ③	土壌肥料概論⑦	園芸各論Ⅰ①
2年園芸	実習	農学演習Ⅱ③④	農学演習Ⅱ③⑤	農学演習Ⅱ③⑥	農学演習Ⅱ③⑦	農学演習Ⅱ③⑧	農学演習Ⅱ③⑨
2年畜産				家畜人工授精師講習(緑山)			
		農業後継者との交流会					
		12月21日	12月22日	12月23日	12月24日	12月25日	
1年園芸	実習	応用化学③	園芸各論Ⅰ②	作物保護論④	特別活動 【環境美化】 (終業式)	冬季休業(プロジェクト研究)	
2年園芸	実習	実習	実習	実習			
2年畜産	実習	実習	実習	実習			
		12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	
1年園芸						元日	
2年園芸							
2年畜産							
		1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	
1年園芸						実習	応用化学④
2年園芸						実習	実習
2年畜産						農業経営演習Ⅱ④	農業経営演習Ⅱ⑤
		1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	
1年園芸		成人の日	人間と社会⑨	実習	園芸各論Ⅰ③	作物保護論⑤	農業機械利用①
2年園芸			実習	実習	実習	農業経営演習Ⅱ⑨	農業経営演習Ⅱ⑩
2年畜産			農業経営演習Ⅱ⑥	農業経営演習Ⅱ⑦	実習	農業経営演習Ⅱ⑧	農業経営演習Ⅱ⑨
		1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	
1年園芸	実習	実習	実習	実習	社会科学基礎⑤	6次化起業論Ⅰ④	農業機械利用②
2年園芸	実習	実習	実習	実習	実習	農業経営演習Ⅱ⑪	農業経営演習Ⅱ⑫
2年畜産	実習	実習	実習	実習	実習	農業経営演習Ⅱ⑬	農業経営演習Ⅱ⑭
		1月25日	1月26日	1月27日	1月28日	1月29日	
1年園芸	実習	園芸各論Ⅰ④	社会科学基礎⑥	実習	実習	作物保護論⑥	6次化起業論Ⅰ⑤
2年園芸	実習	農業経営演習Ⅱ⑬	農業経営演習Ⅱ⑭	試験/実習	選択:森林資源活用④⑤【校外】	実習	農業経営演習Ⅱ⑮
2年畜産	実習			試験/実習	実習	実習	農業経営演習Ⅱ⑯

12/5
日本農業技術
検定

12/9,10
プロジェクト
実績発表会

1/19,20
中国四国プロ
ジェクト・
意見発表会(島
根県)

②年間授業計画(令和8年度)

月	学年	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	備考
2月		I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10	I・II 8:50～12:00	III・IV 13:00～16:10
		2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	
	1年園芸	農業施設整備A①	農業施設整備A③	農業施設整備B②	園芸各論 I ⑤	実習	作物保護論⑦
	2年園芸	実習	農業施設整備A②	実習	社会科学基礎⑦	実習	
	2年畜産	実習	農業経営演習Ⅱ⑱	農業経営演習Ⅱ⑳	農業経営演習Ⅱ㉑	実習	農業経営演習Ⅱ㉒
		2月8日	2月9日	2月10日	2月11日	2月12日	
	1年園芸	実習	人間と社会⑩	6次化起業論Ⅰ⑥	建国記念の日	実習	試験/実習
	2年園芸	実習	くらしと環境⑤	6次化起業論Ⅰ⑦			
	2年園芸	実習	農業経営演習Ⅱ⑮	農業経営演習Ⅱ⑯		農業経営演習Ⅱ㉓	農業経営演習Ⅱ㉔
			2月15日	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日
1年園芸	実習	実習	実習	実習	実習	実習	2/16～18 全国プロジェクト意見発表会
2年園芸	実習	実習	実習	実習	実習	実習	(東京都)
2年畜産	農業経営演習Ⅱ⑳	農業経営演習Ⅱ㉑	農業経営演習Ⅱ㉒	農業経営演習Ⅱ㉓	農業経営演習Ⅱ㉔	農業経営演習Ⅱ㉕	アーケブ接続 2/20～ 2年生春季休業
応用技術研修							アーケブ学科(共通)
3月	1年園芸	実習	2月22日	2月23日	2月24日	2月25日	2月26日
	応用技術研修	アーケブ学科(共通)	実習	天皇誕生日	実習	実習	実習
			3月1日	3月2日	3月3日	3月4日	3月5日
	1年園芸	実習	実習	実習	実習	実習	実習
	応用技術研修		フォーク学科(A区分)	フォークリフト(共通)	フォークリフトα班	フォークリフトα班	フォークリフトα班
		3月8日	3月9日	3月10日	3月11日	3月12日	
	1年園芸	実習	実習	実習	実習	卒業式	3/12 卒業式
	2年園芸	実習	実習	実習	実習	卒業式	
	2年畜産	実習	実習	実習	実習	卒業式	
	応用技術研修	フォークリフトβ班	フォークリフトβ班	フォークリフトβ班	卒業式準備	(卒業式式準備)	
	3月15日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日		
1年園芸	実習	実習	実習	特別活動【環境美化】	春季休業(プロジェクト研究)	3/18 終業式	
2年園芸	実習	実習	実習	卒業式	卒業式		
2年畜産	実習	実習	実習	卒業式	卒業式		
1年園芸	振替休日	春季休業(プロジェクト研究)～4月7日					

③ 専攻別演習・実習計画

ア 果樹コース

実習内容 と到達目標	1 年生		1 もも、ぶどうを中心とした岡山県の主要な果樹について、基礎的な栽培技術を修得する。 2 永年作物である果樹の特性を理解するため、果樹の栽培管理を通じて生育状況の把握と観察力を養う 〔主な栽培管理〕 ・もも：人工受粉、摘果、袋掛け、収穫、施肥、土づくり、剪定、摘蕾、除草 ・ぶどう：ビニール被覆、新梢管理（芽かき、誘引、摘心）、植調剤処理、結実管理（花穂の整形、摘粒）、剪定、土づくり、除草 ・病虫害診断とその防除法								
	2 年生		1 将来の果樹経営のために重要な課題を取り上げ、プロジェクト活動を行う。 2 担当作物の栽培管理を通じて、高品質生産のための管理技術を身に付けるとともに、経営感覚を養う。 3 生育調査、品質調査を通じて調査方法の修得を行う。								
番号	ほ場	作目	品 種	1	2	3	4	5	6	7	8
16	ハウス 1a	ぶどう	紫苑	--x--			△-☆	G-G-◇	◇-◆		
17	ハウス 1a	ぶどう	瀬戸ジャイアンツ	--x--			△-☆	G-G-◇	◇-◆		
18	ハウス 16a	ぶどう	マスカット・オブ・アレキサンドリア シャインマスカット ロザリオ ビアンコ 瀬戸ジャイアンツ、マスカット ビオレー ゴールドフィンガー オリエンタルスター ナガノパープル	--x--			△-☆	G-G-◇	◇-◆		□
19	ハウス 4.8a	ぶどう	ピオーネ オーロラブラック シャインマスカット	--x--			△-☆	G-G-◇	◆		□
38	簡易被覆 10a	ぶどう	ピオーネ オーロラブラック シャインマスカット クイーンニーナ	--x--			∩-△-☆	G-G-◇	◆		□
36 37 41	露地 24a	もも	はなよめ、加納岩白桃 さきがけはくとう、夢あさま 白鳳、あかつき、なつごころ 清水白桃、おかやま夢白桃 白麗、白皇、白露、黄金桃	x-▼	▼	▼	●	◇	◆	□	□
40	露地 5a	かき	富有、次郎 太秋、西条 愛宕、早秋		x			○	◇	◇	
39	露地 6a	すもも	大石早生、李王		x		●	◇	□	□	□

凡例 x:剪定、▲:加温、▼:摘蕾、∩:ビニール被覆、△:発芽、☆:芽かき、○:開花、●:人工受粉、G:ホルモン

。 袋かけ、収穫、施肥、				演習の内容 1 1年間の栽培計画とプロジェクト実施計画の作成 2 生育調査、果実品質調査の実施 3 文献及び現地講習等による栽培技術の学修 4 調査結果の取りまとめと分析 5 プロジェクト発表の準備	
9	10	11	12	ねらい	研究課題
-----□□□□□#-----				・紫苑の栽培技術の修得	・着色向上技術の検討
--□□□□#-----				・瀬戸ジャイアンツの栽培技術修得	
]□□□□□□□□□□-#				・欧州系ぶどう品種の施設栽培技術の修得 ・無核栽培技術の修得 ・ぶどうの若木育成技術の修得	・果実品質向上技術の検討 ・着色向上技術の検討 ・ホルモン処理の検討
]□□-----#-----				・欧米雑種ぶどう品種の基本技術の修得 ・ぶどうの若木育成技術の修得	
□□□-----#-----				・欧米雑種ぶどう品種の基本技術の修得 ・ぶどうの若木育成技術の修得	・着色向上技術の検討 ・晩腐病対策の検討
]□□-----#-----				・ももの基本技術を修得 ・ももの若木育成技術の修得	・安定生産、品質向上対策の検討
-----□□□□-#----				・かきの基本技術の修得	
-----#-----				・すももの基本技術の修得	

処理、◇:摘果、◆:袋(笠)掛け、□:収穫、#:施肥・土づくり

イ 野菜コース

指導の重点と到達目標	1年生	1 野菜の基礎的な栽培技術や施設管理を習得する。 【主な栽培管理】は種、育苗、ほ場準備(耕うん、有機物施用、基肥施用)、定植、かん水、整枝・穫・出荷調整 【施設管理】被覆資材の保守・点検・張替、暖房機の保守点検、防除機やトラクター、畝立機の使用 2 野菜の栽培技術及び知識を修得することにより、栽培上の問題を把握し、プロジェクト研究の課題								
	2年生	1 プロジェクト研究は、野菜の生育に合わせた栽培管理、調査、結果の取りまとめを行う。また、栽培修得する。 2 プロジェクト研究を踏まえ、生産量や生産費、労働時間等を把握し、現状分析と将来の営農計画を								
番号	ほ場	作 目	1	2	3	4	5	6	7	8
1	ハウス 210㎡	トマト・なす	-----□□□□□□□□□□□□□□							
2	ハウス 210㎡	トマト (養液土耕)	△-----○-----□□□□□□□□□□□□							
3	ハウス 210㎡	トマト、ミニトマト (養液土耕)	△-----○-----□□□□□□□□□□□□							
4	ハウス 210㎡	いちご(育苗)	△-----◎-----○							
6	ハウス 150㎡	野菜苗全般育苗	ナス、トマト、キュウリ、葉菜類等							
7	ハウス 120㎡	アスパラガス 軟弱野菜	-----□□□□□□□□□-----□□□□□□□□ △----□□ △----□□ △----□□ △----□□ △----□□							
8	ハウス 216㎡	はくさい	△-----○-----□□□□							
9	ハウス 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
10	ハウス 216㎡	ズッキーニ (養液土耕)	△-----○-----□□□□□□□□□							
11	ハウス 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
12	ハウス 216㎡	きゅうり (養液土耕)	△-----○-----□□□□□□□□□□□□							
13	ハウス 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
14	ハウス 180㎡	いちご	□□□□□□□□□□□□□□□□□□							
34	露地	レタス	△----○-----□□□□							
15	有機ハウス 2.2a 有機露地 1.8a	ブロッコリー ズッキーニ	△-----○-----□□□□□ △-----○-----□□□□□□□							
35	露地	にんじん	△-----□□□□□							
44	露地 (畜産ほ場)	にんにく	-----□□□□□							

凡例 △:は種or親株植付、▼:接ぎ木、●:移植、◎:採苗、○:定植、□:収穫

誘引、病虫害防除、中耕・土寄せ、収 方法の修得 を設定する。				演習計画 1 プロジェクト研究 計画樹立 2 生育調査、収穫調査、コスト調査の実施 3 プロジェクトの遂行中に生じた問題点の原因究明 4 最新の栽培技術情報の収集とその理論の学修 5 プロジェクト研究の調査・結果とりまとめ 6 プロジェクト研究 発表準備	
管理を通じて、専門的な知識・技術を 樹立する。					
9	10	11	12	ねらい	研究課題
-----○-----				・トマト・なすの栽培技術の習得	
				・トマトの栽培技術の習得	・竹炭利用の検討 ・摘果方法の検討
				・トマト、ミニトマトの栽培技術の習得	・天敵利用技術の検討
				・いちごの育苗技術の習得	
				・野菜育苗の基礎技術の習得	
□□----- △-----□□				・アスパラガスのハウス栽培技術 及び軟弱野菜の周年栽培技術 の習得	
				・はくさいの栽培技術の修得	
-----□□□□				・いちごの高設栽培技術の習得	
				・ズッキーニの栽培技術の修得	
-----□□□□				・いちごの高設栽培技術の習得	
				・きゅうりの栽培技術の修得	・つる下ろし栽培の検討
-----□□□□				・いちごの高設栽培技術の習得	
-----□□□□				・いちごの高設栽培技術の習得	・間欠冷蔵処理技術の検討 ・摘果方法の検討
				・レタスの栽培技術の修得	・被覆資材の検討
				・有機無農薬栽培の基礎技術の 習得	・スーパーセル苗、リビングマルチ技 術の検討
				・にんじんの栽培技術の修得	・保温資材の検討
△----				・にんにくの栽培技術の習得	

ウ 花きコース

実習内容 と到達目標	1 主要花きの基礎的な栽培技術や施設管理を修得する。 栽培技術:は種、育苗、ほ場準備、定植、かん水管理、温度管理、病虫害防除、収穫、出荷調整、灌水施肥同時 施設管理:被覆資材の保守・張替、暖房機の保守点検、防除機やトラクター、土壌消毒機等、管理用機械の使用 2 主要花きの基礎的な栽培に関する知識を修得することにより、観察力や栽培管理に関する問題意識を持たせ、2 行う。										
	1 プロジェクト課題は各自の問題意識に基づいて設定し、各品目や目的に応じた栽培管理、調査、結果の取りまと 主体的に樹立するとともに、栽培管理及び施設管理を担当し、担当品目について専門的な知識と技術を修得する。 2 プロジェクト課題をふまえた経営分析を行い、経営計画を樹立する。										
番号	ほ場	作 目	1	2	3	4	5	6	7	8	
20	ハウス 100㎡	鉢物カーネーション	☆				□ □ □				
		花壇苗		△ ~ △	☆ ~ ☆		□ □			△ ~ ~ ☆	
21	ハウス 100㎡	葉物等				◇ ~ ○	×			□ □ △ ~ ○ ×	
22	ハウス 100㎡	カーネーション	□ □ □	□ □ □	□ □ □	□ □ □ □		○	×	×	
23	ハウス 100㎡	シクラメン ガーデンシクラメン	~ △ ~	~ ~ ~	~ ~ ☆			☆			
24	育苗ハウス 100㎡	花壇苗・鉢物等	~ ~ ~	△ ~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	
25	組織培養 順化室 75㎡	きく、カーネーション等	---	---	---	☆	---	□ □ □			
		各品目育苗	△ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	
26	ハウス 239㎡	カーネーション	□ □ □	□ □ □	□ □ □	□ □ □ □		○	×	×	
27	ハウス 200㎡	ばら(スタンダード、スプレ	□ □ □	□ □ □	□ □ □	○		▼		▼	
28	ハウス 100㎡	花壇苗(春出荷) (夏~秋出荷) (秋~冬出荷)	△ ~ ☆			□ □ □ □ △ ~ ☆		□ □	△	~ ~ ☆ △	
29 -1	ハウス 133㎡	スイートピー			□ □	□ □ □					
		ストック		□ □ □	□ □ □	□ □ □					
29 -2	ハウス 130㎡	小ぎく・輪ぎく				◇ ~ ○	×			□ □ △ ~ ○ ×	
30	ハウス 286㎡	ユーストマ、きんぎょそう、 きく等施設花き									
31	冷房育苗 ハウス 36㎡	ラークスパー								△ ~ ~	
		葉ぼたん									△ ~ ~
		パンジー							△	~ ~ ~	
33	ハウス 66㎡	小ぎく・輪ぎく				◇ ~ ○	×			□ □ △ ~ ○ ×	
42	露地 50㎡	ひまわり、葉ぼたん等 露地花き									
43	露地 120㎡	りんどう			△	~ ~ ~	~ ~ ○				
		小ぎく・輪ぎく						◇ ~ ○	×		

凡例 △:は種or発芽、~:育苗、◇:挿し芽、&:接ぎ木、●:移植、▼:摘蕾、○:定植、☆:鉢上げor鉢替え、×:摘心、□:収穫

施用等、基本技術の修得 法の修得 年次の個別プロジェクトの課題設定を				演習の内容 1 プロジェクト課題品目の特性や栽培上の問題点の調査 2 栽培計画及び調査課題の設定 3 病害虫診断と対策 4 生産、消費の動向、市場調査 5 調査結果の取りまとめ、分析方法の研究 6 プロジェクト発表の準備	
めを行う。また、栽培計画や調査計画を					
9	10	11	12	ねらい	研究課題
	☆			・鉢物カーネーションの生産技術の修得	・電照を用いた鉢物カーネーションの栽培
□ □ □				・パンジー、ペチュニア等花壇苗生産技術の修得	・灌水、施肥方法や温度管理の検討
△ ~ ~ ○ ×			□ □	・かすみそう、タラスピ等の添え花となる切り花生産技術の修得	・高品質な添え花、葉物等の生産技術の検討
	□ □ □ □		□ □ □	・カーネーションの切り花生産技術の修得	・栽植密度と被覆資材が収量及び品質に及ぼす影響
		□ □	△ ~ □ □ □	・シクラメンの高品質生産技術の修得	・新たな培土による安定生産技術の検討
~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	・は種培土、育苗倍土の生産技術の修得	・発芽、育苗に適した培土の検討
			☆	・組織培養苗の順化技術の修得 ・各品目繁殖方法の修得	・組織培養苗の順化中の管理方法の修得 ・種子繁殖、栄養繁殖苗の管理方法の修得
~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ ~	~ ~ △		
	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □	・カーネーションの根域制限による切り花生産技術の修得	・コンテナを利用した施設花きの生産栽培の検討
□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □ □	・ばらの高品質生産技術の修得	・紫外線ランプを活用したうどんこ病対策技術の検討
□ □ □ □				・花壇苗生産技術の修得	・高品質な苗の生産技術の検討
~ ~ ☆	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □	・スイートピーの葉長と切花長の相関関係に基づく栽培技術の習得	・スイートピーの葉長と切花長の相関による草勢管理
~ ○			□ □		
△		○		・ストックの栽培技術の修得	・八重鑑別技術の修得
			□ □	・8月出荷における栽培技術の修得	・物日需要に対応した開花技術の検討
△ ~ ~ ○ ×					
				・施設花きの栽培技術の修得	・安定生産技術の検討
~ ~ ~				・冷房育苗技術の修得	・苗の安定生産技術の検討
~ ~ ~					
			□ □	・小ぎく、輪ぎくの切り花生産技術の修得	・安定生産技術の検討
△ ~ ~ ○ ×					
				・露地花き品目の栽培技術の修得	・灌水方法や植栽密度の検討 ・染色等付加価値を付けた出荷技術の検討
□ □ □				・りんどう栽培技術の修得	・極早生品種の生育促進の検討 ・高温障害回避技術の検討
□ □				・9月出荷における栽培技術の修得	・物日需要に対応した開花技術の検討

◆:冷蔵

エ 畜産課程(和牛コース)

実習内容と到達目標	学年	2年生											
	本校	1 家畜の飼養管理技術を修得(分校実習)する。 2 プロジェクト調査結果をとりまとめる。 3 卒業論文をとりまとめる。											
	分校等	1 家畜の飼養管理を行う。 2 飼料作物生産、調製、貯蔵、利用 技術を修得する。 3 家畜市場等を調査する。 4 先進農家を視察研修する。 5 プロジェクト調査研究を行う。 6 各種資格を取得する。(家畜人工授精師)											
作 目		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
飼料作物	冬作 (イタリアンライグラス)		□	□									
	夏作 (トウモロコシ)		○			□							
	夏作 (スーダングラス等)			○			□						
	いも類		○				□						
家畜管理	繁殖管理	↔											
	哺育・育成管理		↔										
	肥育家畜管理							↔					
	種雄家畜管理							↔					
	畜産環境保全	↔											
	飼料作物管理			↔									
	校外実習				↔		↔						

凡例 ○:は種・定植、□:収穫

演 習 の 内 容

- 1 飼料作物の乾草調製
- 2 家畜の一般管理
- 3 畜産環境保全及び堆肥化
- 4 プロジェクト課題の設定
- 5 プロジェクト調査・研究
- 6 プロジェクト調査結果の取りまとめ、発表演習
- 7 家畜の審査
- 8 畜産物の流通・市場動向調査

ねらい	研究課題
・飼料作物の栽培体系 ・堆肥を利用した施肥設計 ・サイレージ、乾草調製技術の修得	・飼料作物別の施肥設計の検討 ・サイレージ化に合った刈取適期の検討 ・乾草生産と生産歩留まりの検討 ・飼料作物品種比較 ・牧野の害草防除及び病虫害の防除技術の検討
・繁殖家畜の飼養管理技術の修得	・種付適期と人工授精
・哺育・育成牛の飼養管理技術の修得	・若齢家畜の発育と育成技術
・肥育家畜の飼養管理技術の修得	・家畜の交配と肉質 ・家畜肥育管理
・種雄家畜の飼養管理技術の修得	・種雄牛の改良 ・精液検査
・畜産環境保全及び堆肥生産技術の修得	・家畜ふん尿処理及び利用
・飼料作物の栽培管理・技術の修得	・飼料作物の品質とその特徴
・より実践的な飼養管理技術の修得	・先進農家の実態と経営

④ 総括学修

演習の内容と到達目標	1 地域の農業環境条件の特性と営農状況との関係を理解する。		[農業経営計画の作成] 1 我が家(地域)の農業経営の実態と問題点を把握する。							
	2 合理的な農業経営に関する知識・技術について理解する。		2 農業経営改善計画の作成方法・手法を理解する。 (1)経営目標と経営条件 (2)作目編成と作目規模 (3)部門計画、全体計画							
3 経営改善、地域農業振興の方法、手順について学修する。		3 パソコンを利用して経営実態や経営計画のとりまとめを行う								
4 プロジェクト研究の意義と方法・手順・とりまとめについて学修する。										

総括学修（卒業論文）	項目	1 「私の農業経営計画」の作成（2年生） 2 プロジェクト研究（2年生）	1	2	3	4	5	6	7	8
			●----- ○-----							
	内容	●農業経営演習（農業経営計画の作成） ○農学演習（プロジェクト研究）	○プロジェクト計画立案		○プロジェクト計画発表	●経営計画作成準備	○プロジェクト中間発表	○プロジェクト中間発表	○プロジェクト中間発表	

							[プロジェクト研究] 1 課題の選定:農業経営の実態と問題点を把握する。 2 問題解決の方法:問題の発生原因の考察、解決の方法・手順の検討、計画の樹立を行う。 3 プロジェクト研究:栽培等―調査―分析を行う。 4 研究成果のとりまとめ:調査結果、分析資料の整理とりまとめと考察を行う。	
9	10	11	12	1	2	3	ねらい	研究課題
-----●-----●-----● -----○							1 農業経営の現況と問題点の理解 2 経営改善、地域農業振興の方法、手順の理解 3 プロジェクト研究の意義と方法、手順の理解 4 調査、分析診断、計画・整理の理解、能力の養成	1 学修成果の点検(復習)、補完学修の必要な科目事項の整理 2 地域農業や我が家の農業経営に関する問題点の分析、実践計画の作成 3 資料作成、発表方法の修得
○ プロジェクト 中間発表	● 経営計画 作成準備	○ プロジェクト 計画発表	○ プロジェクト 実績発表	● 経営計画 作成		● 経営計画 完成		

⑤ 免許・資格の取得

- ・在学中に次の免許・資格を取得する機会が与えられる。
- ・それぞれ事前に受験のための講習会、研修会等を実施する。

免許・資格等	対 象	試験日等
刈払機取扱作業安全衛生教育	1年生	4月
危険物取扱者乙種第4類	1年生、2年生	6月、10月、2月
フラワー装飾技能士（2・3級）		7月、12月
日本農業技術検定（1・2級）		7月、12月
農業簿記検定（1～3級）		7月、11月
狩猟免許（わな猟）		7月～11月
小型車両系建設機械運転特別教育		7月
大型特殊自動車免許（農耕車限定）		8月～9月
けん引免許（農耕車限定）		10月～11月
アーク溶接等特別教育		2月
フォークリフト運転技能講習		3月
【畜産課程】		
家畜人工授精師	2年生	11月下旬～12月中旬

1 3 学修評価基準

各授業科目の評価は、学則第20条及び第21条の規定によるほか、授業に関する規定第7～9、20条に基づき、次に掲げるとおりとする。

- （1）各授業科目の考查を受けるために必要な出席時間数は、講義・演習・実技・実験及び特別活動においては授業時間数の70%以上、実習においては90%以上に達すること。
- （2）出席時間総数は、原則として、授業時間数から学生が欠席、早退又は遅刻した時間数を減じることにより、算定するものとする。また、早退又は遅刻を繰り返した場合は、3回ごとに欠席1回の扱いとする。
- （3）考查は、試験、論文、報告書その他により行う。
- （4）考查の成績は100点法により、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とし、60点以上の科目の単位を認定する。
- （5）考查の結果、不認定の科目がある場合には進級又は卒業を認めず、原級留置とする。
- （6）単位制

本校は令和8年度から単位制に移行する。1年生から2年生への進級に必要な単位数は必修科目48単位以上、卒業に必要な総単位数は必修科目99単位以上である（園芸課程）。畜産課程2年生が卒業に必要な単位数は51単位以上である。

①講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で1単位とする。

②実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で1単位とする。

1 4 教育・寮生活日課表

時 刻	日 課	摘 要
7:00	起 床	○授業内容は都合により直前に変更する場合があります。 ○寮集会室、談話室の使用は原則22時までとする。 ○清掃以外の理由による、22時以降の離室は原則禁止とする。
7:20	朝 点 呼	
7:20～ 8:00	授業準備	
8:00～ 8:45	朝 食	
8:50～10:20	授 業①	
10:20～10:30	休 憩	
10:30～12:00	授 業②	
12:00～13:00	昼 食	
13:00～14:30	授 業③	
14:30～14:40	休 憩	
14:40～16:10	授 業④	
16:10～22:00	自習・寮自治会・ 学生自治会活動	
17:00～19:00	夕 食	
17:00～21:45	入 浴	
22:00	門限・夜点呼	
22:05～22:25	清掃 (月曜日のみ)	
23:00	消灯 (就寝)	

15 先進農家留学研修実施要領

(1) 目 的

県内の先進農家等の優れた経営の中で、農作業や生活を体験し、経営者の知識、技術や経営感覚、さらには人間性を肌で感じることにより、自らの実践力の向上や人間的な成長につなげるとともに、将来の営農計画の糧とする。

(2) 実施主体

岡山県農林水産総合センター農業大学校

(3) 対象学年及び実施期間等

対象学年	実施期間	実施時期	
1 年生	2 8 日	前 期	6 月 8 日(月) ～ 6 月 26 日(金) 〈19 日〉
		後 期	9 月 24 日(木) ～ 10 月 2 日(金) 〈9 日〉

原則として前期・後期とも同一農家とする。

(4) 研 修 先

農業士及び農業経営や技術の優れた先進農家、法人等とし、農業普及指導センター（畜産の場合は農畜産物生産課（以下、農業普及指導センター等とする））の協力を得て選定する。

(5) 研修期間中における指導

- ア 学生は研修期間中、受入農家の一員としてその経営に従事し働きながら学ぶ。
- イ 受入農家は、学生の学修計画について研修地の農業普及指導センター等及び農業大学校と協議し、計画的な学修指導を行う。
- ウ 学生による農耕車両（トラクター、耕耘機、テラー等）の運転は、ほ場内に限る。学生による自動車（軽四トラック等）の運転は認めない。
- エ 受入農家は、期間中、学生の病気及び作業事故等の防止、特に農業機械等の取扱いには十分注意し、万一事故が発生した場合は、直ちに農業大学校及び農業普及指導センター等に連絡する。
- オ 農業大学校及び農業普及指導センター等は期間中に適宜巡回し、指導を行う。

(6) 経 費

農業大学校運営費とする。

(7) 学生の研修報告書の提出

学生は、研修終了後 10 日以内に、別に定める報告様式により校長に研修報告書を提出する。

(8) そ の 他

学生の受入農家への交通手段は、原則として公共交通機関を利用するものとし、自家用車を利用する場合は、自動車等使用許可願を提出し、校長の許可を得る。

16 応用技術研修等計画

農業技術の近代化・専門化・多様化に伴い、営農に関する知識、技術、資格は就農に必要不可欠となっている。このため、地域農業の担い手を養成する観点から、学生のみならず新規参入者を含む農業者も対象として、先進的な農業を営む上で必要な機械操作等の修得に係る応用技術研修を実施する。この他に学生を対象に営農に関する知識や技術を修得する特別講義等を実施する。

※下表中「(1)取得可能な免許又は資格」については、所定の講習等終了後又は試験合格後に、別途登録申請等を要する場合がある。

研修等科目	(1) 取得可能な免許又は資格※ (2) 研修内容	(3) 研修会場 (4) 試験会場	(5) 研修期間 (6) 試験日	対象・ 人員	講師 (主催)
小型車両系建設機械 運転特別教育研修	(1) 小型車両系建設機械運転特別教育 (2) 機体重量3トン未満のパワーショベル等の操作技術、機械の取扱い及び関連法規の講義	(3) 大学校 (4) なし	(5) 7/9～10 (2日間) (6) なし	学生及び農業者40名程度	㈱岡山・技能講習センター
大特車(トラクター) 運転技術研修	(1) 大型特殊自動車免許(農耕車限定) (2) 農耕用トラクターの公道運転技術の修得	(3) 大学校 (4) 県運転免許センター	(5) 8/17～9/18 (6) 9/4～18 (7日間)	学生及び農業者45名程度	㈱岡山・技能講習センター
大特車(けん引)運転 技術研修	(1) けん引免許(農耕車限定) (2) 農耕用トラクターの公道でのけん引運転技術の修得	(3) 大学校 (4) 県運転免許センター	(5) 10/16～11/13 (6) 11/4～11/13 (6日間)	学生及び農業者30名程度	㈱岡山・技能講習センター
アーク溶接特別教育 研修	(1) アーク溶接特別教育 (2) アーク溶接機械の取扱い、アーク溶接実技及び関連法規の講義	(3) 大学校 (4) なし	(5) 2/19～26 (4日間) (6) なし	学生及び農業者40名程度	(一社)岡山県労働基準協会
フォークリフト運転 技能講習	(1) フォークリフト運転技能講習 (2) 最大荷重1トン以上のフォークリフトの取扱い、関連法規の講義・試験及び実技試験	(3) 大学校 (4) 大学校	(5) 3/1～3/10 (6) 3/1・2学科 3/3～3/10実技 (5日間)	学生及び農業者40名程度	(一社)岡山県労働基準協会
家畜人工授精師講習	(1) 家畜人工授精師免許 (2) 畜産概論等講義及び家畜の飼養管理ほか実習	(3) 酪農大学校 (4) 酪農大学校	(5)(6) 11/20～12/18(予定)	学生(畜産課程)	酪農大学校職員等
刈払機取扱作業安全衛生教育 (農業基礎の講義)	(1) 刈払機取扱作業安全衛生教育 (2) 刈払機作業の安全性確保及び作業者に対する振動障害の防止	(3) 大学校 (4) なし	(5) 4/15 (6) なし	学生	㈱岡山・技能講習センター
狩猟免許(わな猟)特別講義	(1) 狩猟免許(わな猟) (2) 狩猟について必要な知識の講義及びわな猟の技能の修得	(3) 大学校 (4) 県内会場	(5) 5/13 (6) 7～11月	学生	県職員及びわな猟専門家
農業簿記検定 (農業経営分析論の講義)	(1) 農業簿記検定 (2) 農業簿記についての必要な知識の修得	(3) 大学校 (4) 大学校等	(5) 5/12～6/9 (講義5回) (6) 7/5, 11/22	学生	農林水産総合センター職員
フラワー装飾技能士 (2・3級) (フラワー装飾の講義等)	(1) フラワー装飾技能士(2・3級) (2) 花束、ブーケの製作及びアレンジメント製作技術等の修得	(3) 大学校 (4) 大学校	(5) 5/13～6/3 (講義5回) +補講 (6) 7～9月	学生	1級フラワー装飾技能士
日本農業技術検定特別講義	(1) 日本農業技術検定(1・2級) (2) 1級は農業に関する高度な知識及び技術の修得、2級は農作物の栽培管理の基本の修得	(3) 大学校 (4) 大学校	(5) 5/28, 11/6 (6) 7/4, 12/5 (1級は12/5のみ)	学生	農大
危険物取扱者 (応用化学の講義)	(1) 危険物取扱者乙種第4類免状 (2) 危険物に関する法規、基礎化学、消火方法等の修得	(3) 大学校 (4) 県内会場	(5) 12/7～1/8 (講義5回) (6) 6/21, 10/25, 2/14	学生	農大

17 主要行事予定

行事名		令和8年度	(参考) 令和7年度実績
始業式		4月8日(水)	4月8日(火)
入学式		4月9日(木)	4月9日(水)
新入生オリエンテーション		4月10日(金)	4月10日(木)
プロジェクト計画発表会(2年生)		4月28日(火)	4月21日(月)
農大新鮮市		野菜の日(4/25) 果樹の日(9/5) 花きの日(11/21)	野菜の日(4/26) 果樹の日(9/6) 花きの日(11/22)
プロジェクト中間発表会(2年生)		4月28日(火) 6月2日(火) 7月7日(火) 7月14日(火) 8月31日(月)	4月28日(月) 6月3日(火) 7月8日(火) 7月15日(火) 9月1日(月)
中国四国ブロック農業大学校長・同窓会 代表者会議		愛媛県 日程は未定	山口県 6月10日(火) ~ 6月11日(水)
先進農家留学研修 (1年生)	前 期	6月8日(月) ~ 6月26日(金)	6月9日(月) ~ 6月27日(金)
	後 期	9月24日(木) ~ 10月2日(金)	9月22日(月) ~ 10月3日(金)
アグリ・夢・みらい塾(就農希望者等)		7月31日(金) 三徳園	7月23日(水) 三徳園
オープンキャンパス		6月6日(土) 7月25日(土) 8月22日(土)	6月7日(土) 7月26日(土) 8月23日(土)
中国四国ブロック農業大学校等教務・研 修担当者会議		徳島県 日程は未定	鳥取県 7月29日(火)
入学試験	推 薦	9月26日(土)	9月27日(土)
	一般前期	11月14日(土)	11月15日(土)
	一般後期	2月6日(土)	2月7日(土)
収穫祭		10月10日(土)	10月11日(土)
中国ブロック農業大学校研修生のつどい		鳥取県 10月13日(火) ~ 10月14日(水)	岡山県 10月15日(水) ~ 10月16日(木)
プロジェクト実績発表会(2年生)		11月19日(木) 12月9日(水) 12月10日(木)	11月18日(火) ~ 12月10日(水)
プロジェクト計画発表会(1年生)		11月24日(火)	11月18日(火)
中国四国プロジェクト発表会・意見発表 会		島根県 1月19日(火) ~ 1月20日(水)	愛媛県 1月28日(水) ~ 1月29日(木)
全国プロジェクト発表会・意見発表会		東京都 2月16日(火) ~ 2月18日(木)	東京都 2月17日(火) ~ 2月19日(木)
卒業証書授与式		3月12日(金)	3月13日(金)
定期休業	夏 季	8月1日(土) ~ 8月20日(木)	8月1日(金) ~ 8月21日(木)
	冬 季	12月24日(木) ~ 1月7日(木)	12月24日(水) ~ 1月6日(火)
	春 季	3月19日(金) ~ 4月7日(水)	3月19日(木) ~ 4月7日(火)

1 8 実習施設配置図



野菜コースハウス	No1～15, 45, 46	3,095㎡
果樹コースハウス	No16～19	2,308㎡
花きコースハウス	No20～33	2,051㎡
野菜コース露地ほ場	No15, 34, 35	9.8 a
果樹コース露地ほ場	No36～41	45 a
花きコース露地ほ場	No42, 43	1.7 a
和牛コース露地ほ場	No44	30 a
水田		224 a